

第106回 定時株主総会

平成22年9月29日

株式会社 アルバック

■ 経営環境

▶ 日本

- ◆ 民間設備投資回復遅れ、雇用情勢が低調に推移
- ◆ 政策効果の影響で個人消費に回復の兆し
- ◆ 中国など新興国市場への輸出が増加
→ 生産の持ち直し

▶ 米国

- ◆ 景気刺激策で生産活動拡大、企業収益が回復基調
- ◆ 景気は緩やかに持ち直しの動き
- ◆ 雇用情勢は依然厳しい状況で推移

■ 経営環境

▶ 欧州

- ◆ギリシャ危機で財政不安が浮上
- ◆雇用環境の悪化で景気失速懸念

▶ アジア

- ◆中国を中心に各国政府の財政・金融面での景気刺激策で内需拡大
→設備投資増加、個人消費回復

■ 事業環境

▶ フラットパネルディスプレイ(FPD) 業界

◆ 中国を中心とする景気刺激策に伴う
薄型テレビの底堅い需要

→ パネルメーカーで生産能力増強など
市場回復が顕著



▶ 半導体業界

◆ PC需要の回復、スマートフォン、電子書籍など新たな
アプリケーションの市場投入

→ メモリ需要の高まり、価格上昇

→ 微細化対応など設備投資が活発化



■ 事業環境

▶ エネルギー・環境関連

◆「エネルギー・デバイス」の需要増大

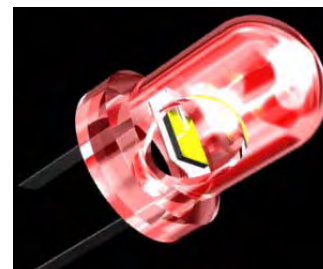
「エネルギー・デバイス」



太陽電池



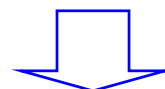
ハイブリッドカー
電気自動車 (EV)



発光ダイオード
(LED)



二次電池



クリーンエネルギー政策として大幅な成長が期待される

■ 当社グループの対応

▶ 営業活動

- ◆ 競合他社に先駆け独創的な新製品を市場投入
- ◆ アルバックソリューションズで積極的な受注活動

▶ 投資

- ◆ 成長する中国などで事業展開
- ◆ ポストFPD戦略の推進
 - ◆ カスタマーズサポート事業
 - ◆ リサイクルビジネスなど
- ◆ 新技術・新製品開発への投資

■ 当社グループの対応

▶ 「脱装置・脱真空」ビジネスの取り組み

◆ 電気自動車向け太陽光発電・急速充電
システムの市場投入

▶ 収益

◆ 固定費圧縮

◆ 諸経費削減、設備投資抑制など

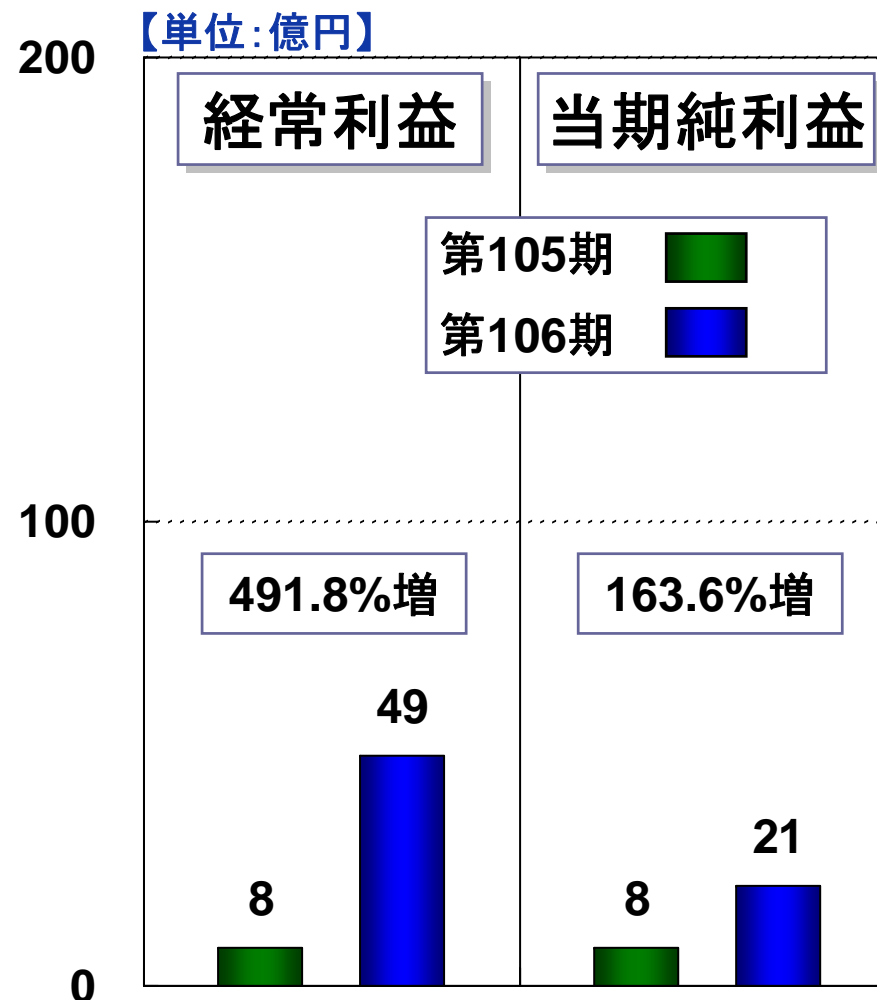
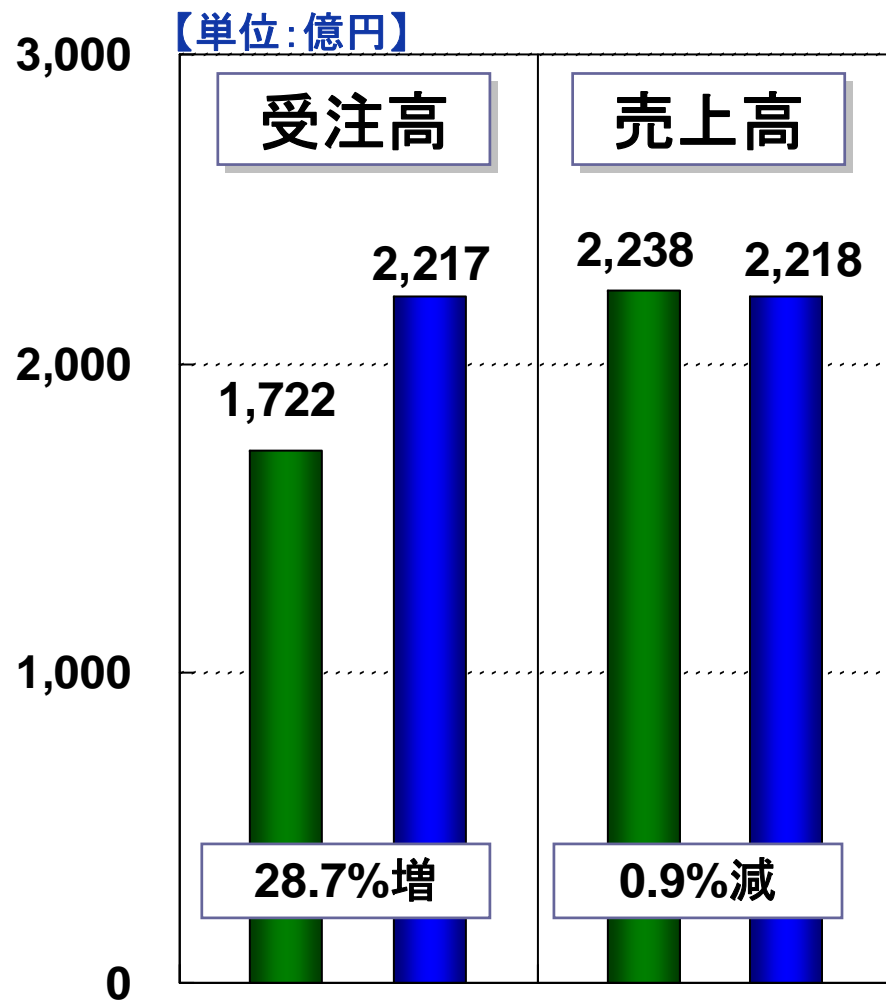
◆ コストダウン

◆ 標準化など生産改革の推進

◆ グループ内垂直統合と内製化

◆ 海外生産の推進

第106期(H22/6期)業績(連結)



【単位未満四捨五入】

■FPD製造装置

▶売上

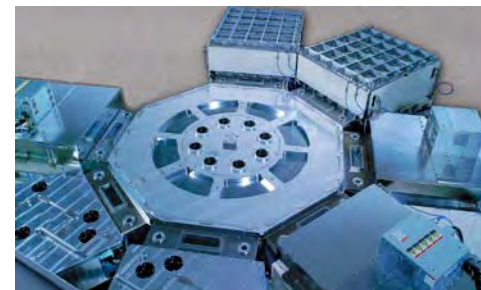
- ◆韓国、日本など大型液晶TV用スパッタリング装置
- ◆韓国向けに低温ポリシリコン用プラズマCVD装置など

▶受注

- ◆中国など各国の景気刺激策による需要増
→アジアを中心に大型液晶TV用スパッタリング装置が堅調
- ◆有機EL用製造装置



大型液晶TV用
スパッタリング装置
SMDシリーズ



低温ポリシリコン用
プラズマCVD装置
CMDシリーズ

■太陽電池(PV)製造装置

▶期初

- ◆金融危機の影響で、台湾、中国での投資計画凍結・延期
→厳しい状況

▶第2四半期以降

- ◆アジア向けにマイクロクリスタル用プラズマCVD装置を受注
- ◆日本中心に薄膜系太陽電池製造装置、
結晶系太陽電池用成膜装置を受注
→回復の兆しがあったものの総じて厳しい状況



マイクロクリスタル用
プラズマCVD装置



太陽電池一貫製造ライン

■半導体及び電子部品製造装置

- ▶ 期初: 世界的な半導体不況の影響で厳しい状況
- ▶ 第2四半期以降
 - ◆ DRAM、フラッシュメモリ関係在庫調整一巡
 - ◆ PC、スマートフォン、電子書籍の需要増で市場環境好転
 - ◆ メモリ用スパッタリング装置、微細化対応投資
 - 受注・売上堅調
 - ◆ パワー半導体用スパッタリング装置 → 引き合い増加
 - ◆ LED製造装置(エッチング、成膜装置)
 - 引き合い増加、アジア中心に受注増加



スパッタリング装置
ENTRON™-EX
シリーズ



スパッタリング装置
SRHシリーズ



エッチング装置
NEシリーズ

■コンポーネント

▶期前半

投資計画の延期など厳しい状況

▶期後半

◆各国の景気刺激策によりFPD、半導体業界の
設備投資が回復 →受注・売上増加

◆PV(太陽電池)製造装置用真空ポンプ、
自動車業界向け真空ポンプ・計測器 →受注増加



大型真空ポンプ



計測器

■一般産業用装置

▶エネルギー・環境関連の新製品を市場投入、積極的に拡販

◆巻取式真空蒸着装置、真空熱処理炉、真空凍結乾燥装置などを売上

◆巻取式真空蒸着装置の受注堅調

◆環境対応車(ハイブリッドカー、電気自動車)用
フィルムコンデンサ製造用

◆スマートフォン、電子書籍用タッチパネル製造用



巻取式真空蒸着装置
EWシリーズ



真空熱処理炉
FHHシリーズ



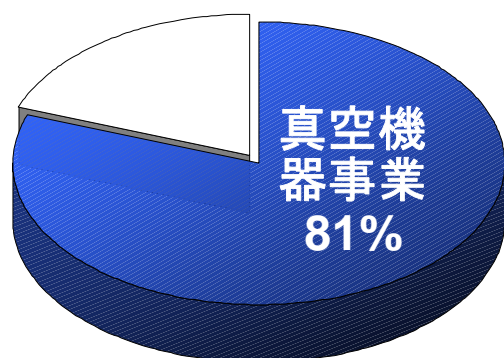
医薬業界向け
真空凍結乾燥装置
DFシリーズ

事業セグメント別実績

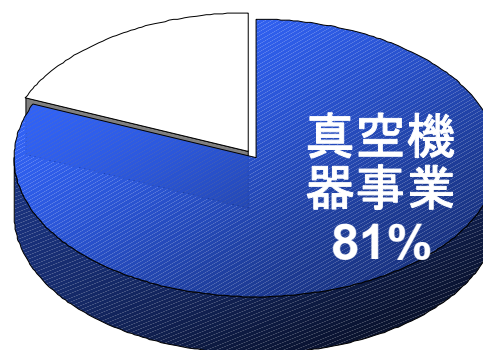
【単位：億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業 損益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
真空機器事業	1,788	137.7	1,805	101.2	69	1,007	98.6
真空応用事業	429	101.2	413	90.7	△28	77	132.2
合計	2,217	128.7	2,218	99.1		1,083	100.4

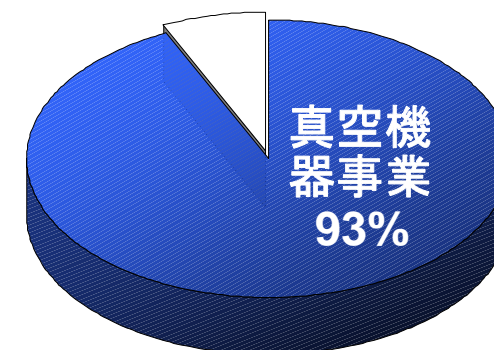
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

■材料・部材

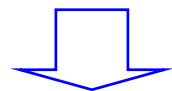
▶各国政府の景気刺激策にともなう需要増

◆韓国、台湾、日本などのFPD業界の稼働率上昇

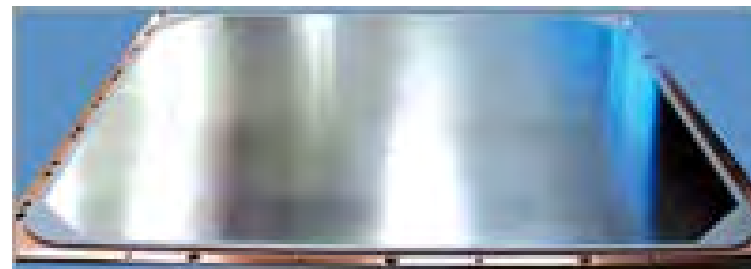
→液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料
の受注・売上が回復

◆グループ一体となった積極的な拡販活動の展開

▶材料価格の変動、販売価格の引き下げ圧力



生産効率の向上などコスト削減を
実施したものの厳しい状況が続く



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料

■その他

▶制御システム関連

- ◆メタル、自動車、コンバーティング（巻取り装置）業界向けの設備投資が緩やかに回復
→本格的回復に至らず厳しい状況が継続

▶分析機器関連

- ◆日本は民間企業で受注回復
- ◆アジア、欧米の大学、民間企業で設備投資計画の延期
→受注振るわず厳しい状況

▶電気自動車向け急速充電器、 太陽光発電・急速充電 システムの受注活動を開始



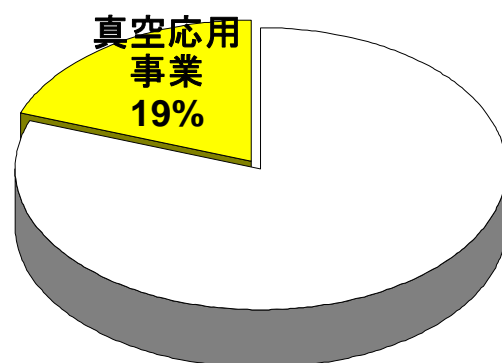
太陽光発電・急速充電システム

事業セグメント別実績

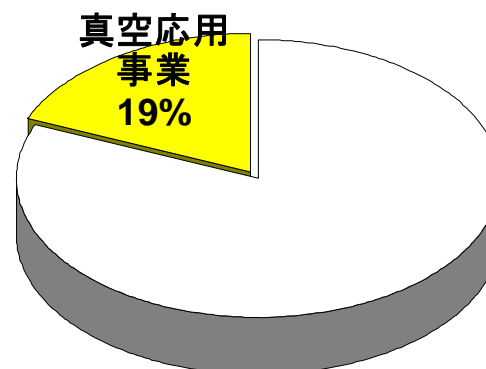
【単位：億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業損益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
真空機器事業	1,788	137.7	1,305	101.2	69	1,007	98.6
真空応用事業	429	101.2	413	90.7	△28	77	132.2
合計	2,217	128.7	2,218	99.1		1,083	100.4

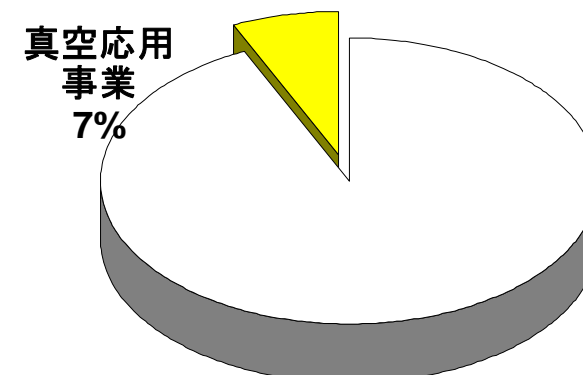
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

設備投資の総額:111億円

■ (株)アルバック

千葉超材料研究所

電子機器関連及び半導体の評価装置

電子材料製造用生産設備



■ アルバックテクノ(株)

FPD等製造装置向け部品用洗浄設備

■ 愛発科真空技術(蘇州)有限公司

LED製造装置生産用建物



■ アルバック成膜(株)

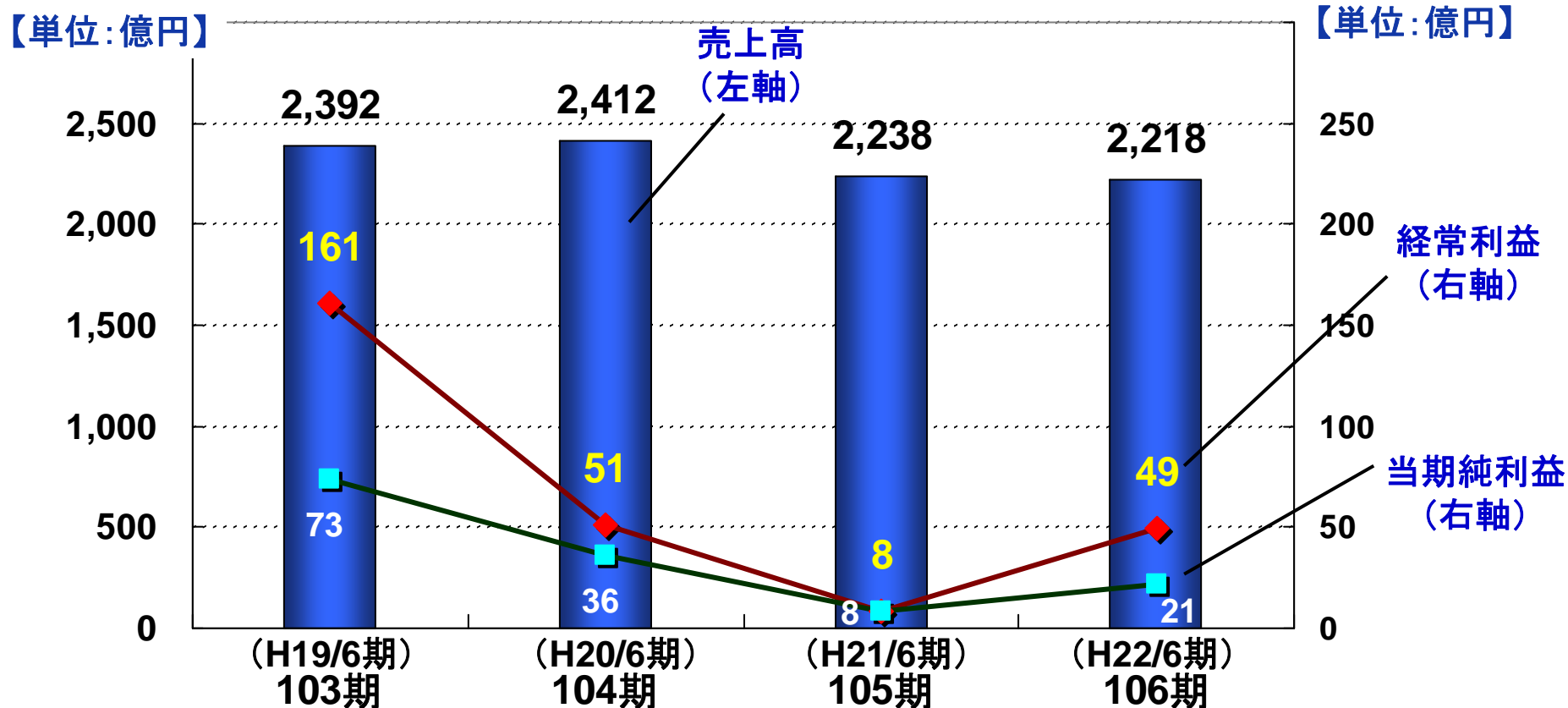
FPD大型マスクブランクス生産用設備



- 平成22年1月26日
公募増資により、148億円
(発行価額1株につき2,296.20円)を調達いたしました。

- 借入金、社債
総額 1,002億円

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)



【単位:億円】

総資産	3,176	3,031	3,181	3,138
純資産	944	919	902	1,025

■ FPD、半導体及び電子部品業界の事業環境

▶ 中期的:

- ◆ 成長を維持するが設備投資の成長は鈍化

▶ 長期的:

- ◆ エネルギー・環境関連市場の太陽電池、ハイブリッドカー・電気自動車、二次電池などの成長が見込まれる

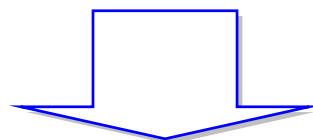
▶ 地域的:

- ◆ 中国が全世界の製造業を牽引、著しい経済成長が日本や世界に影響
- ◆ インドなど新興国の成長期待

■ FPD、半導体及び電子部品業界の事業環境

▶ 製造装置業界

- ◆ 市場価格の下落が継続
- ◆ 製造装置メーカー間でのM&Aなど競争激化
- ◆ 韓国、台湾、中国の製造装置メーカーが、競合先として台頭
- ◆ 円高、ユーロ安といった為替の影響



厳しい競争環境が加速

■ 中長期の成長戦略

- ▶ 既存のFPD、半導体、電子部品製造装置の競争力を高める
- ▶ FPDの次に成長する「4つの柱」を積極的に推進

『4つの柱』 (ポストFPD戦略)

- ◆ デジタル家電用電子部品製造装置
- ◆ エネルギー・環境関連製造装置
- ◆ 中国市場
- ◆ カスタマーズサポート事業と委託加工

▶ 長期的な成長戦略

- ◆ 既存の装置依存から『脱装置・脱真空』ビジネスなどの
新商品・新規事業を加えた成長戦略を展開

①「脱装置・脱真空」ビジネスへの展開

▶ **ポストFPD戦略を発表(平成17年2月)**

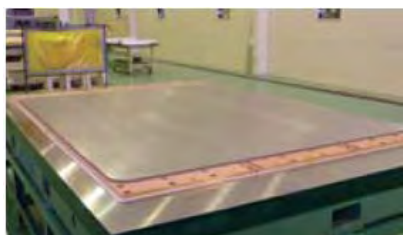
▶ **真空機器事業依存から**

「脱装置・脱真空」ビジネスとして

新商品・新規事業を加えた事業転換

①「脱装置・脱真空」ビジネスへの展開

- ◆真空応用事業の強化
- ◆ターンキー商品の拡充
- ◆イノベーションによる新商品の拡充
- ◆再生可能エネルギー関連事業へ進出



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料



半導体用スパッタリング
ターゲット材料



太陽電池一貫製造ライン



凍結乾燥製剤一貫ライン



電気自動車用急速充電器



太陽光発電・急速充電システム



太陽光発電事業

②コストダウン戦略

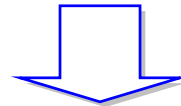
- ▶生産改革の推進
- ▶競合他社に対するコスト競争力の向上

③受注拡大戦略

- ▶既存装置のシェア拡大
- ▶新商品・新規事業の展開

④財務戦略

- ▶営業キャッシュ・フローの増大
収益性の向上とキャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮化で資金効率を向上



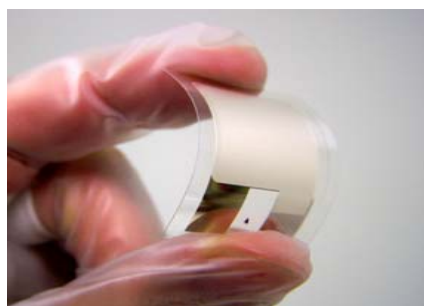
商品開発・新規事業開拓戦略の研究開発投資、
グローバル戦略の設備投資等に充当

⑤商品開発・新規事業開拓戦略

独創的で最先端・高収益性が期待できる新製品
をいち早く開発、市場投入に注力



太陽電池製造装置



薄膜Liイオン二次電池



不揮発メモリ製造装置



LED製造装置



太陽電池関連測定器



新型ドライポンプ



透明酸化膜半導体用
スパッタリングターゲット材料

⑥ グローバル戦略

- ▶ 韓国、台湾、中国などアジア中心に事業の拡大
- ▶ 米国、欧州、インド、ロシア、南米などの市場開拓を推進、カスタマーズサポート体制の推進
- ▶ 韓国、台湾、中国の競合メーカーに対し、コスト競争力を持った製品の生産体制を確立

- 当社がアルバックマテリアル(株)を吸収合併
(平成22年10月1日)
 - ▶ 当社を存続会社とし、アルバックマテリアル(株)を消滅会社とする吸収合併を実施

- アルバック九州(株)がアルバック精機(株)を吸収合併
(平成22年10月1日)
 - ▶ アルバック九州(株)を存続会社とし、アルバック精機(株)を消滅会社とする吸収合併を実施

連結貸借対照表(資産の部)

【単位:億円】

	105期	106期	増 減
流動資産	1,993	1,992	△ 1
固定資産	1,188	1,146	△ 42
有形固定資産	965	896	△ 70
無形固定資産	38	44	5
投資その他の資産	184	206	23
資産合計	3,181	3,138	△43

資産の部: 43億円減

◆流動資産:

- ◆現金及び預金 : 83億円増加
- ◆受取手形及び売掛金 : 111億円増加
- ◆たな卸資産 : 185億円減少

◆固定資産:

- ◆有形固定資産 : 70億円減少

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

【単位:億円】

	105期	106期	増 減
(負債の部)			
流動負債	1,518	1,396	△ 122
固定負債	762	717	△ 45
負債合計	2,279	2,113	△ 166
(純資産の部)			
純資産合計	902	1,025	123
負債及び純資産合計	3,181	3,138	△ 43

負債の部 : 166億円減少

- ◆支払手形及び買掛金 : 198億円増加
- ◆短期借入金・長期借入金 : 310億円減少
- ◆コマーシャル・ペーパー : 50億円減少

純資産の部: 123億円増加

- ◆資本金・資本剰余金 : 148億円増加
- ◆当期純利益 : 21億円計上
- ◆少数株主持分 : 18億円減少
- ◆評価・換算差額等 : 16億円減少

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結損益計算書

【単位：億円】

	第105期 (H21/6期)	第106期 (H22/6期)	前期比
売上高	2,238	2,218	-20 (-0.9%)
経常利益	8	49	41 (+491.8%)
当期純利益	8	21	13 (+163.6%)

【()内は増減率、単位未満四捨五入】

貸借対照表

【単位：億円】

	第105期	第106期	増 減
(資産の部)			
流動資産	1,575	1,511	△ 64
固定資産	952	954	2
資産合計	2,527	2,465	△ 62
(負債の部)			
流動負債	1,304	1,132	△ 172
固定負債	603	555	△ 49
負債合計	1,907	1,686	△ 220
(純資産の部)			
株主資本	619	779	160
評価・換算差額等	2	△ 0	△ 2
純資産合計	620	779	158
負債純資産合計	2,527	2,465	△ 62

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

損益計算書(当社単体)

【単位:億円】

売上高	1,602
経常利益	23
当期純利益	21

株主懇談会

- 2011年6月期予想と事業戦略
 - ▶ 2011年6月期連結業績予想
 - ▶ 事業戦略

経営環境

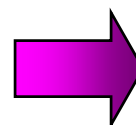
■ 経済概況

- ▶ マクロ的なリスク要因(欧州の財政危機、米景気の先行き懸念、円高等)
- ▶ 実体経済は底を打ち上昇基調

■ アルバックへの影響

◆ 短期的な状況(ポジティブ)

- ▶ 半導体設備投資の回復
- ▶ 中国、韓国、台湾のFPDやLED関連の設備投資が活発化



今年度業績の
プラス要因

◆ 長期的な状況(ネガティブ)

- ▶ 既存事業の市場と日本市場は成長鈍化の兆し
→ 今後の飛躍的な成長を阻害
- ▶ 円高、アジアメーカーの台頭、中国市場の拡大で価格競争激化
→ 利益確保が益々困難に



- 既存事業依存からの大胆な脱却(脱装置・脱真空ビジネス)
- グローバルレベルでのコストダウンの推進

2011/6期業績予想

受注、売上とも、中国、韓国で堅調に推移。PVは日本、中国以外は低迷。
半導体(メモリ、LED)、コンポーネント、マテリアル(LCD向け)で回復する見込み。

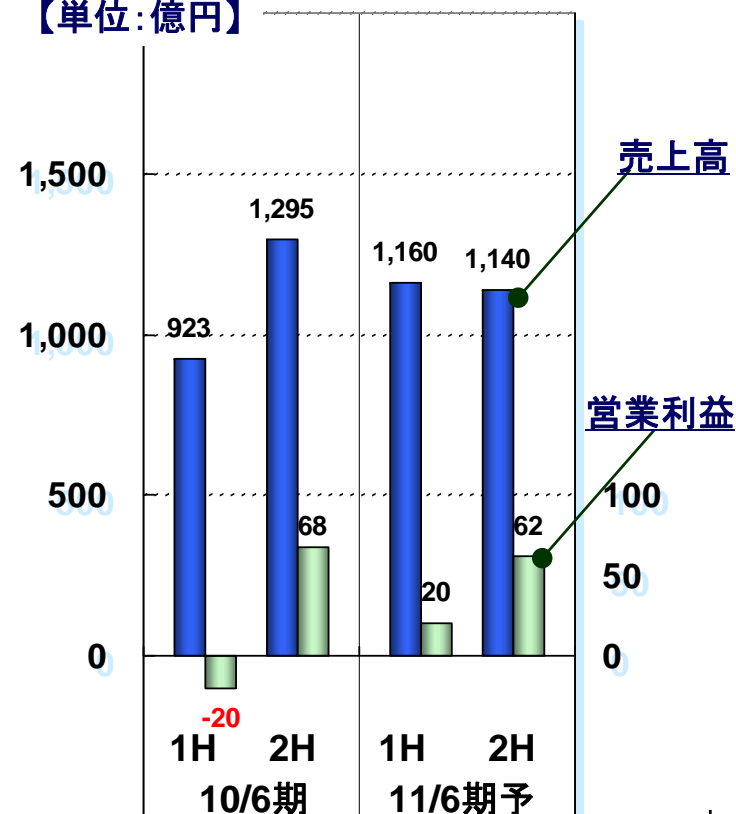
利益面はFPDが好調。半導体、コンポーネント、マテリアルが回復。PVは大幅減。

【単位:億円】

	10/6期 実績	11/6期予	
		2Q(累計)	通期
受注高	2,217 (+29%)	1,126 (-5%)	2,350 (+6%)
受注残高	1,083	1,049	1,133
売上高	2,218 (-1%)	1,160 (+26%)	2,300 (+4%)
営業利益	48 (+38%)	20 —	82 (+71%)
営業利益率	2.2%	1.7%	3.6%
経常利益	49 (+492%)	12 —	65 (+32%)
経常利益率	2.2%	1.0%	2.8%
当期純利益	21 (+164%)	4 —	34 (+59%)

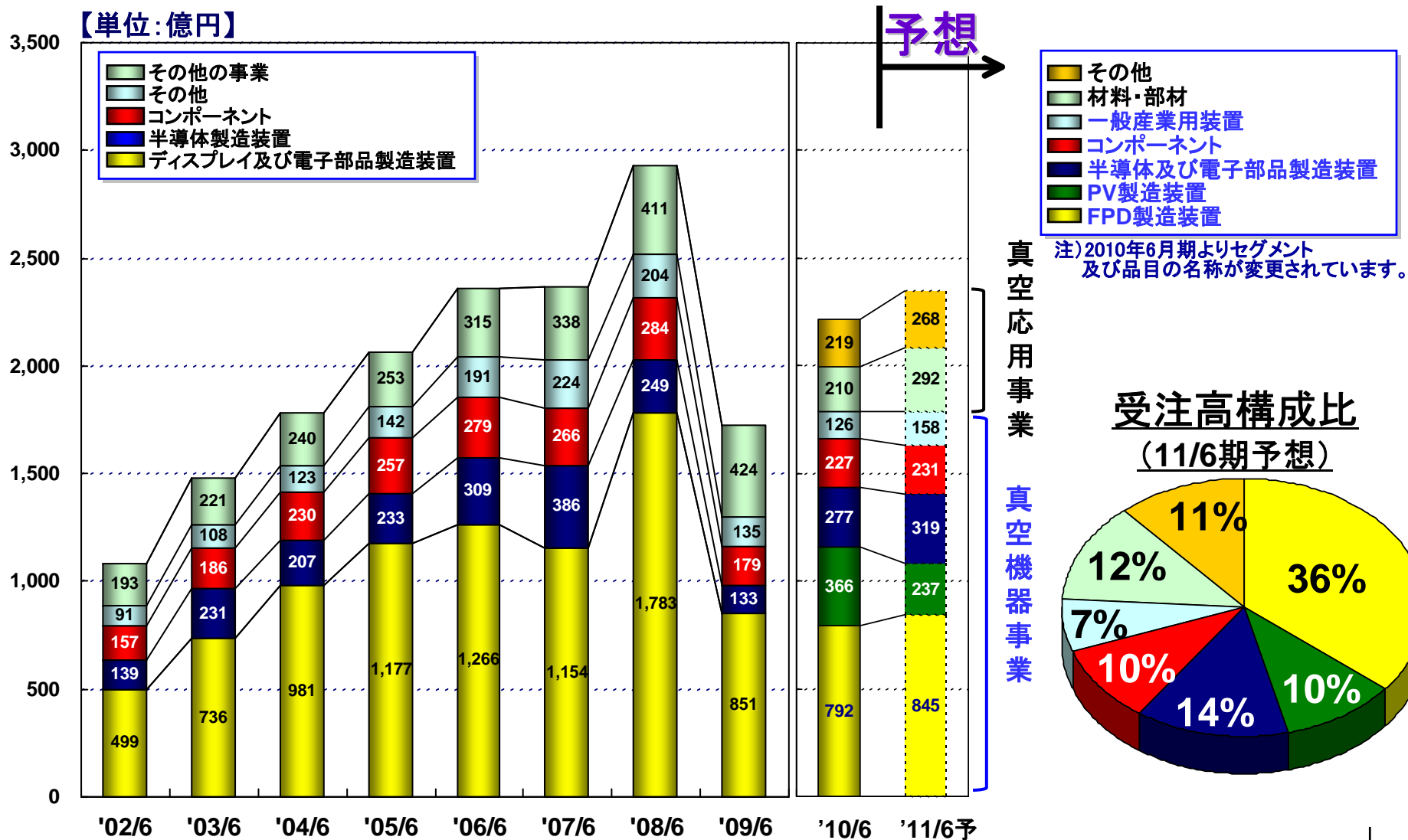
売上高と営業利益の推移・予想

【単位:億円】

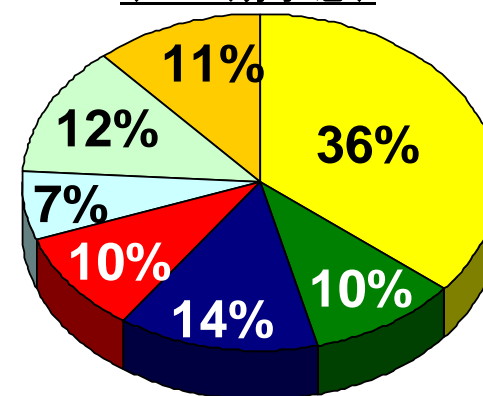


【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

品目別受注高実績・予想

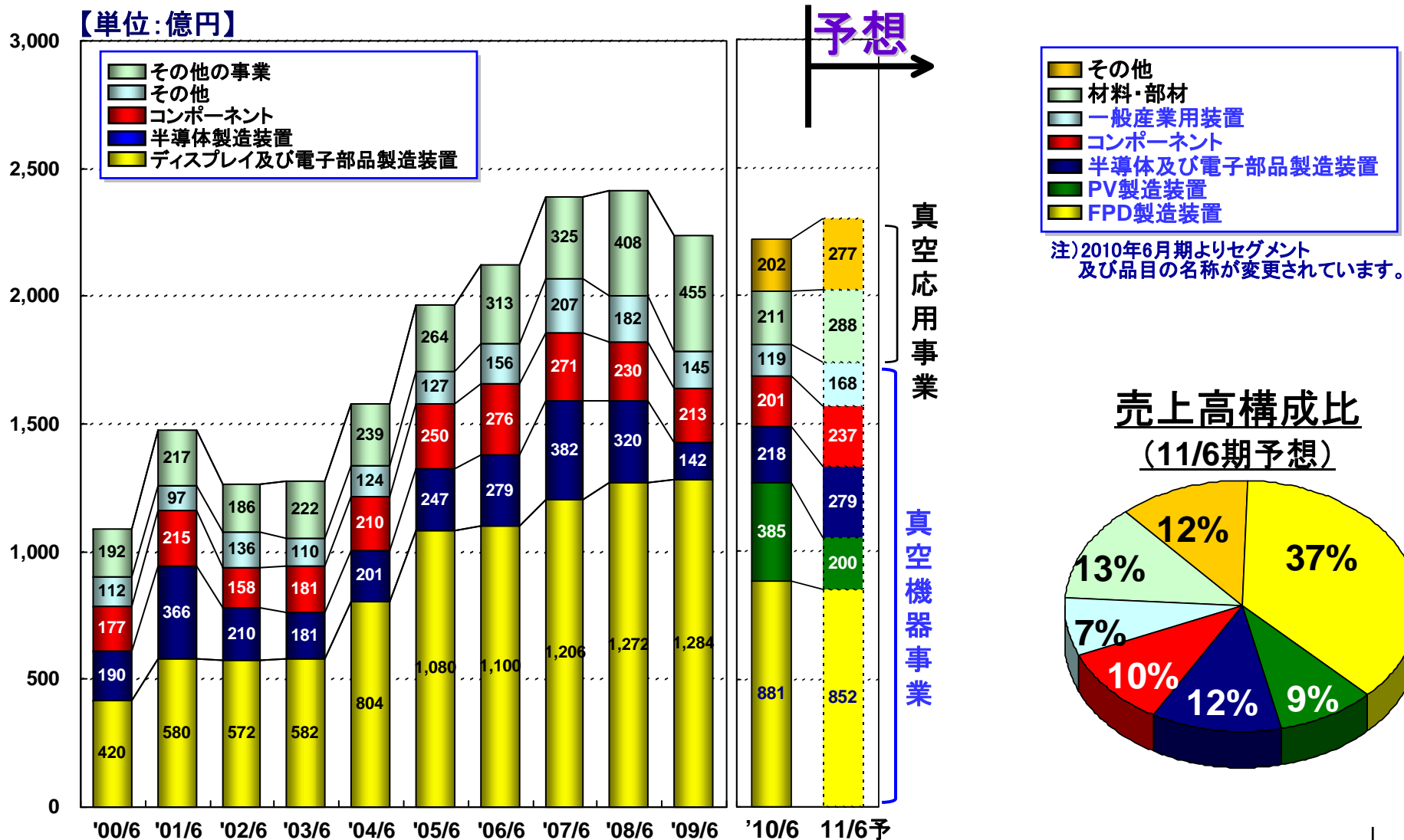


受注高構成比 (11/6期予想)



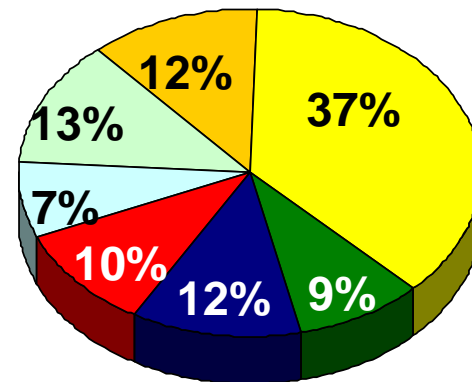
【小数点以下は四捨五入】

品目別売上高実績・予想

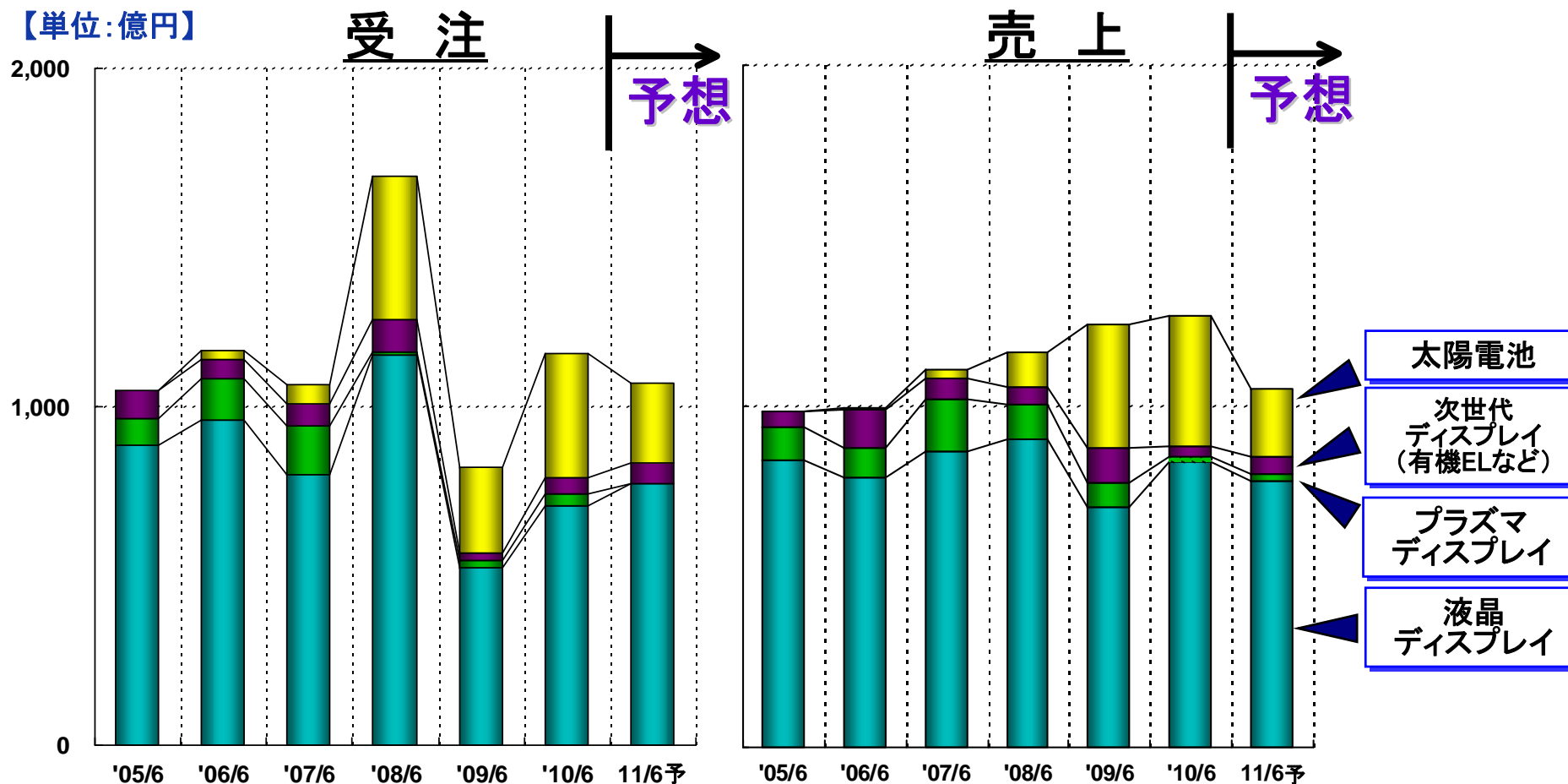


注)2010年6月期よりセグメント及び品目の名称が変更されています。

売上高構成比 (11/6期予想)



FPD製造装置・PV製造装置の推移・予想

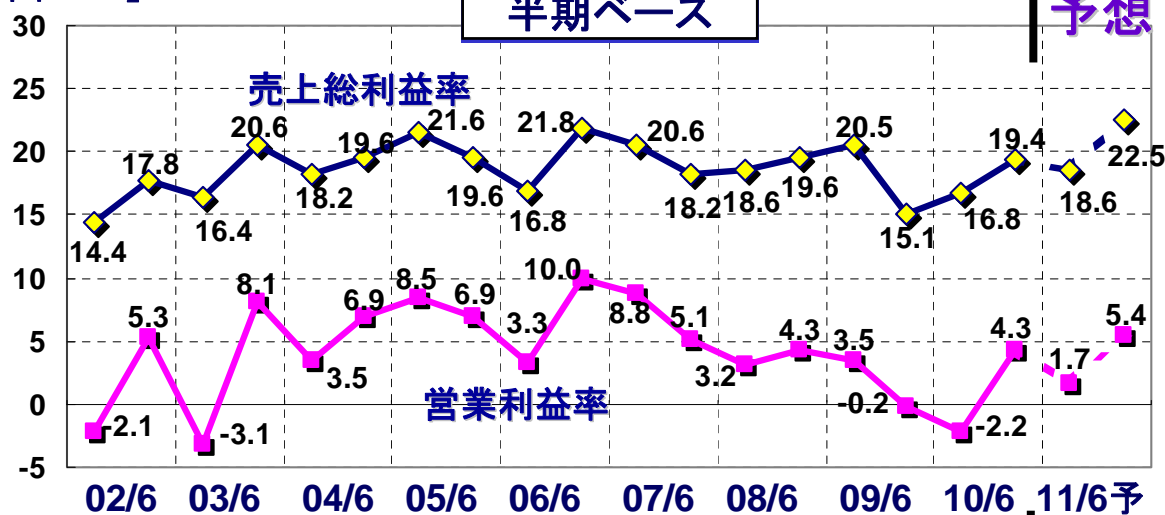


足元の受注環境

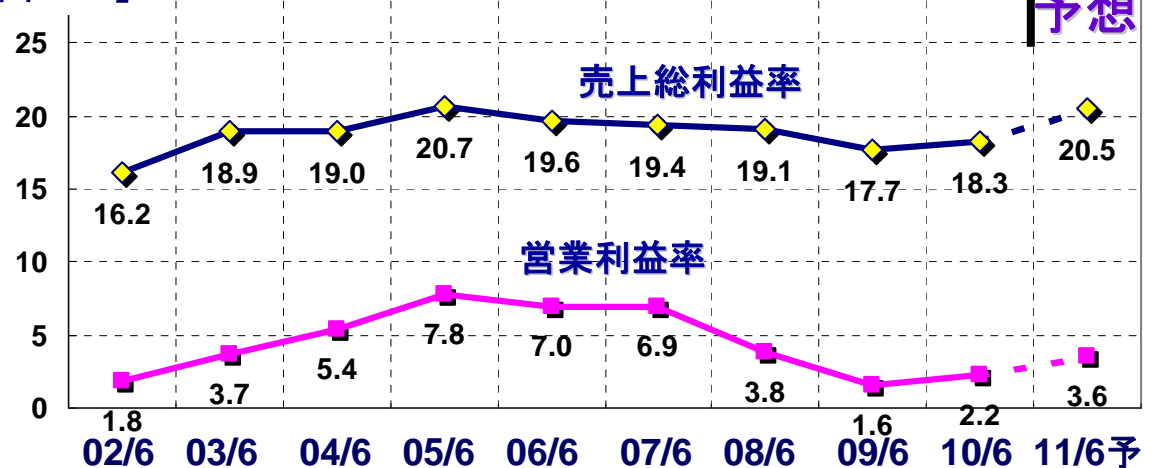
- ◆液晶ディスプレイは、韓国、台湾、中国を中心に設備投資再開
- ◆太陽電池は薄膜シリコン系、結晶系など見込む
- ◆次世代ディスプレイの有機EL関連の引き合いが活発化

利益率の推移・予想

【単位：%】



【単位：%】

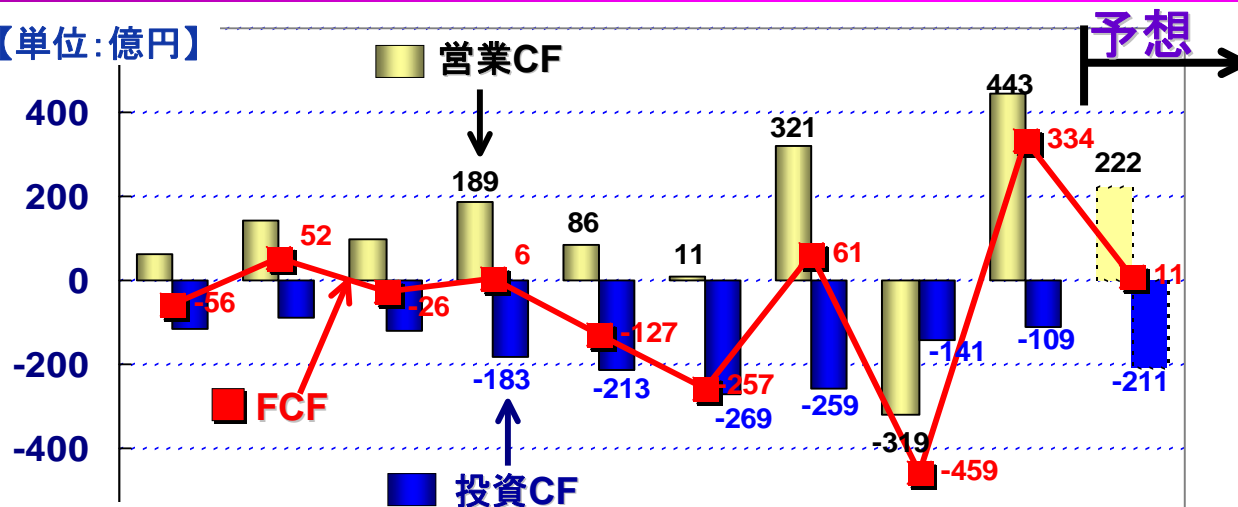


- 2011/6期予想
- 上期
 - ◆ FPD製造装置が堅調
 - ◆ 製造装置向けコンポーネントが回復
 - ◆ PV関連は利益減
 - 下期
 - ◆ FPD製造装置が堅調
 - ◆ マテリアル関連の増産で売上増加。収益性向上
 - ◆ 半導体製造装置、コンポーネントの利益増

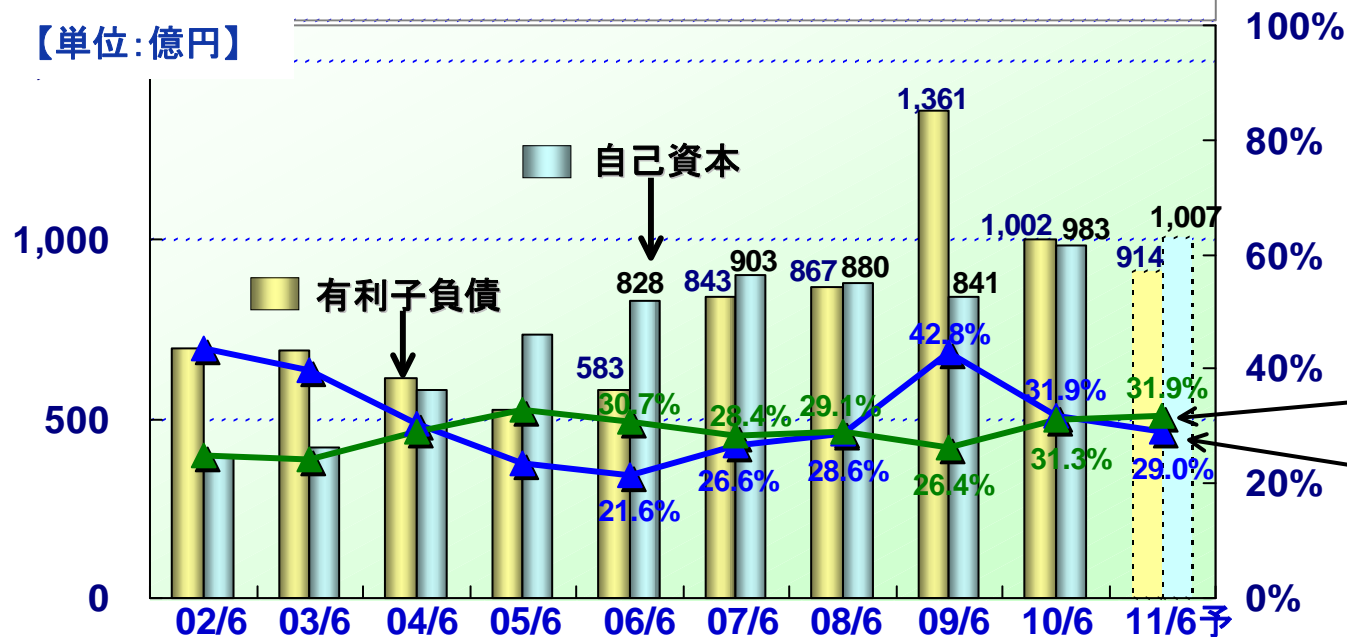
【小数点以下第2位は四捨五入】

キャッシュ・フローと有利子負債の実績・予想

【単位:億円】



【単位:億円】



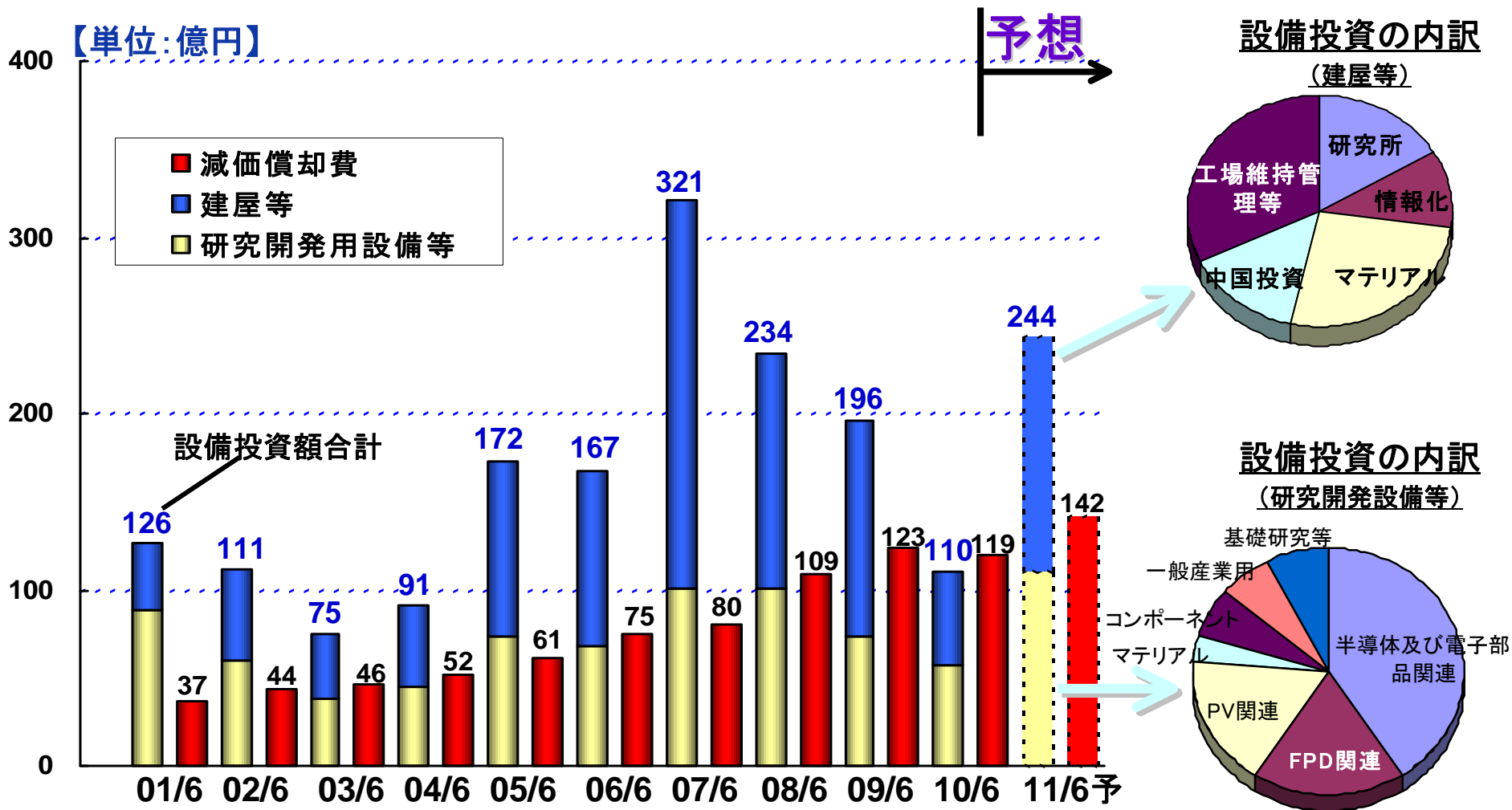
【小数点以下第2位は四捨五入】

2011/6期目標

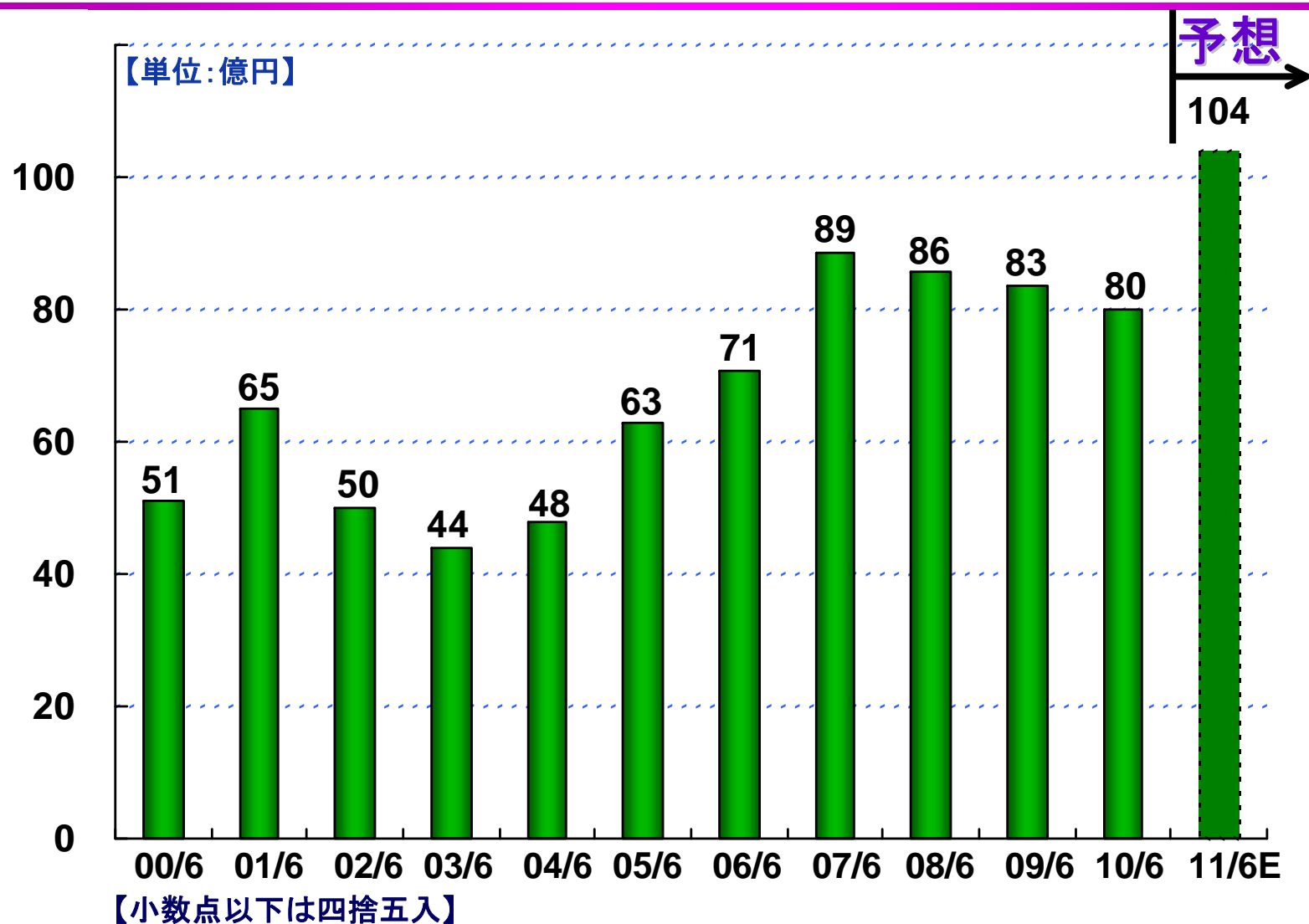
- ▶ FCF: 連続黒字化を維持
- ▶ DEレシオ: 0.9以下を目指す (長期的に0.6以下を目指す)
- ▶ 自己資本比率: 30%台を堅持

- ▲ 自己資本比率
- ▲ 借入金依存度

設備投資、減価償却費の推移・予想



研究開発費の推移・予想



■ 2011年6月期予想と事業戦略

▶ 2011年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

重点施策(1)(2011年6月期)

①再生可能エネルギー関連事業

- ▶ 太陽電池用装置の売上増を図る。薄膜Si系太陽電池以外にも注力
- ▶ 川下への事業展開を図る。太陽電池用コンデショナー、太陽光発電所の敷設など太陽電池関連事業の幅を広げる
- ▶ 電気自動車(EV)用急速充電器の拡販に注力

②マテリアル事業

- ▶ マテリアル事業をアルバックの事業の中核に
- ▶ 国内外の設備投資、技術開発を積極的に実施

③生産体制の見直し

- ▶ グローバルな視点からグループ全体の生産体制の見直し
- ▶ 最適な生産体制を構築、コストダウンを追求

重点施策(2)(2011年6月期)

④国内グループ会社の再編

- ▶国内の販売体制と製造子会社の事業内容を見直し、事業転換と再編を実施

⑤グローバル化

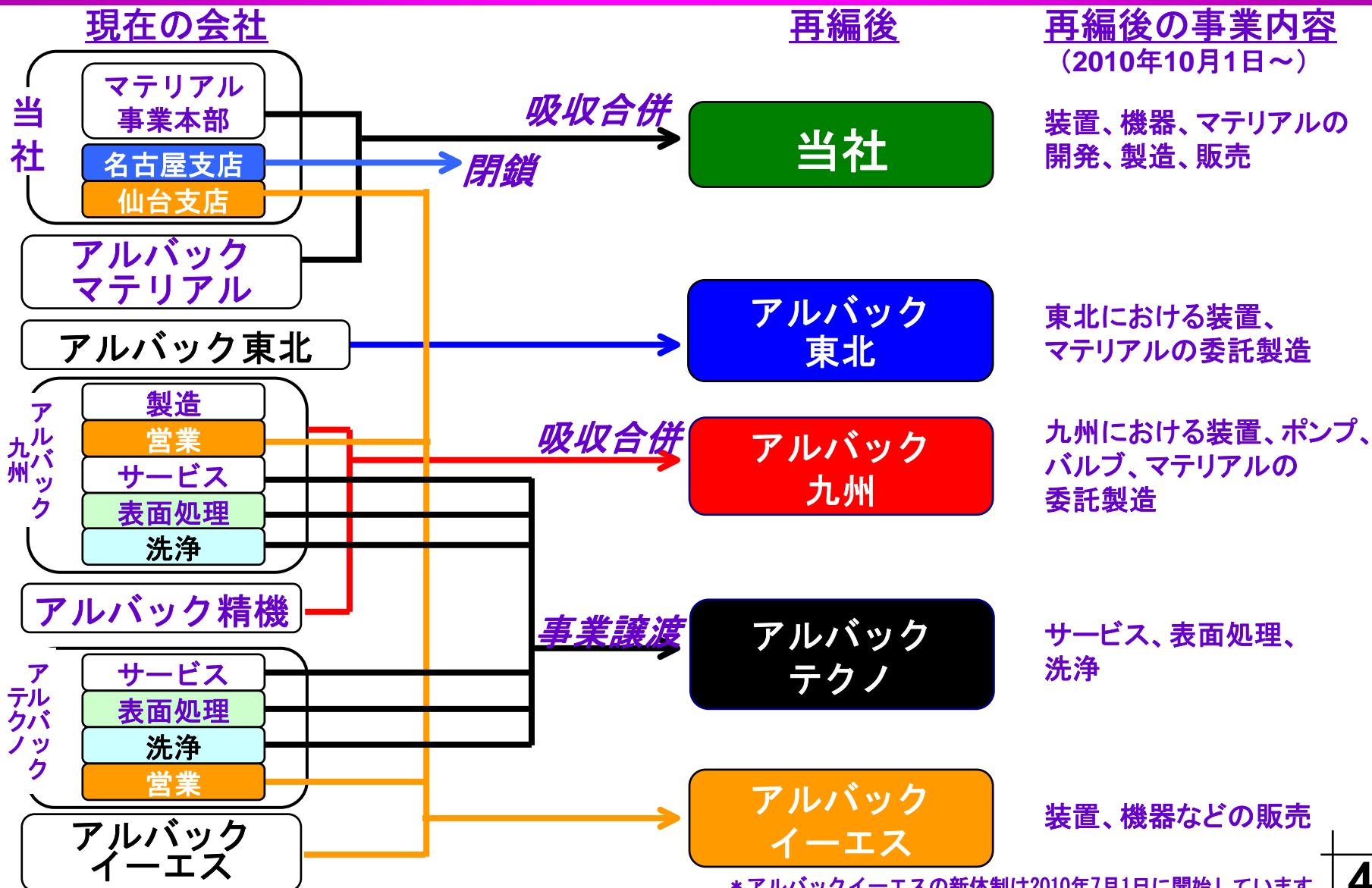
▶中国事業

現地法人設立と拠点拡充の投資から、リターンを確実なものにするため中国各社の体制強化に注力

▶ポスト中国を模索

南米など新興国の市場開拓に注力

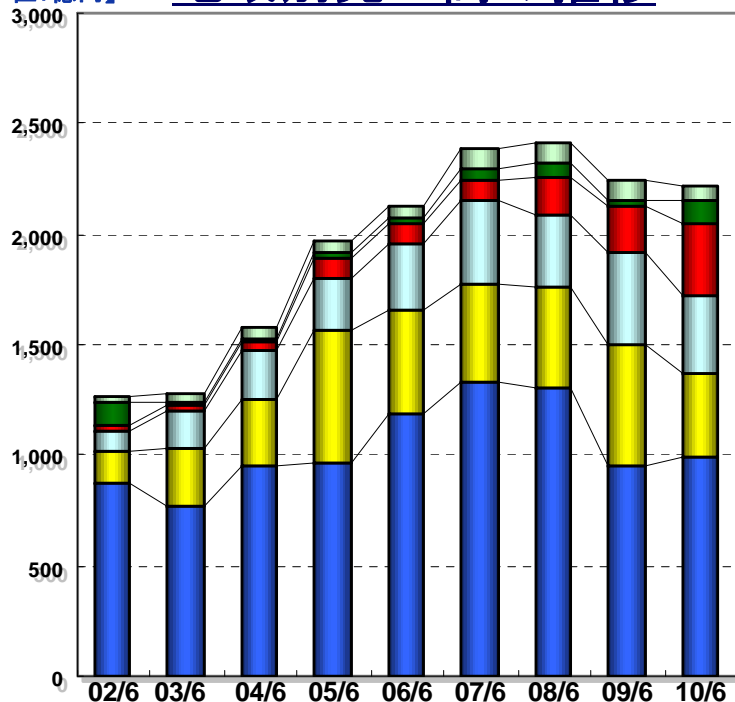
事業再編について



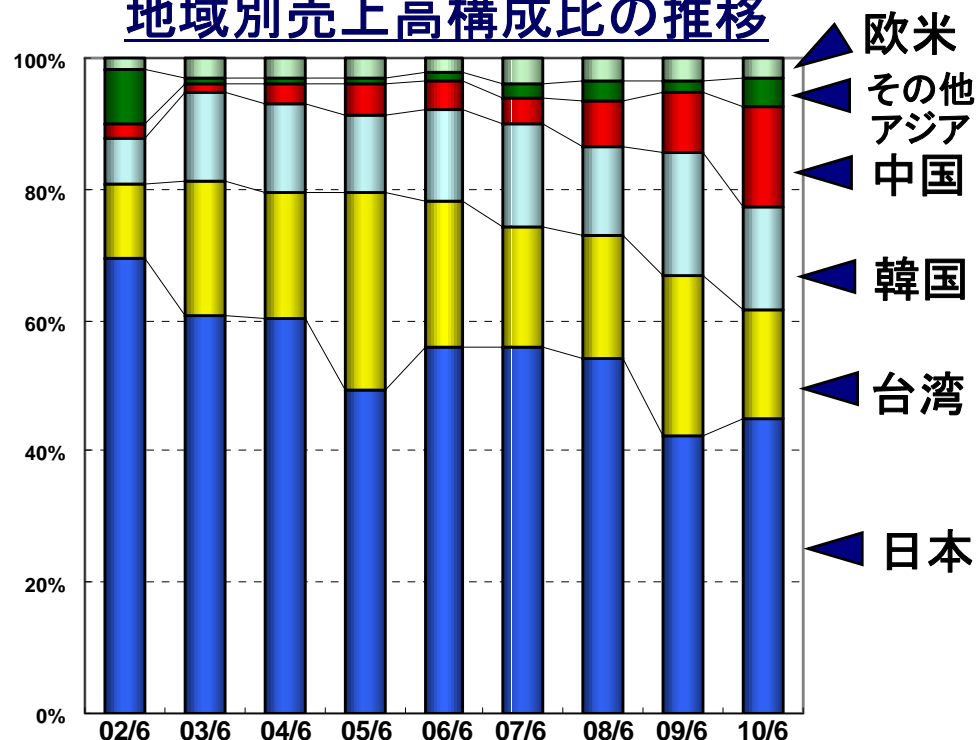
* アルバックイーエスの新体制は2010年7月1日に開始しています

地域別売上高構成比の推移

【単位:億円】 地域別売上高の推移



地域別売上高構成比の推移



	02/6		03/6		04/6		05/6		06/6		07/6		08/6		09/6		10/6		
	売上	比率	売上	比率	売上	比率	売上	比率	売上	比率	売上	比率	売上	比率	売上	比率	売上	比率	前期比
日本	874	69%	773	61%	953	60%	968	49%	1,189	56%	1,334	56%	1,307	54%	949	42%	995	45%	5%
台湾	147	12%	261	20%	304	19%	597	30%	473	22%	442	18%	451	19%	551	25%	369	17%	-33%
韓国	87	7%	172	13%	211	13%	231	12%	292	14%	379	16%	326	14%	413	18%	354	16%	-14%
中国	26	2%	22	2%	47	3%	94	5%	96	5%	90	4%	169	7%	212	9%	333	15%	57%
その他 アジア	102	8%	9	1%	16	1%	21	1%	26	1%	51	2%	70	3%	33	1%	98	4%	196%
欧米	24	2%	38	3%	47	3%	57	3%	48	2%	95	4%	89	4%	80	4%	70	3%	-12%
合計	1,261	100%	1,275	100%	1,579	100%	1,968	100%	2,125	100%	2,392	100%	2,412	100%	2,238	100%	2,218	100%	-1%

【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

今後の事業環境

■ 今後の事業環境

市場は、日本が縮小し、アジアへ大きくシフト。

円高が益々進行。アジア、欧州の競合メーカーとの価格競争が激化。

■ アルバックの対応

「既存事業依存からの大胆な脱却(脱装置・脱真空)」

「グローバルレベルでのコストダウンの推進」

■ 中長期の注力施策

①再生可能エネルギー関連(PV,EV)

②マテリアルビジネス、委託加工

③ターンキーソリューションの展開

④中国での成長

⑤成長が鈍化している分野(事業部、会社)の事業転換、再編

⑥生産体制、生産拠点の大胆な見直し

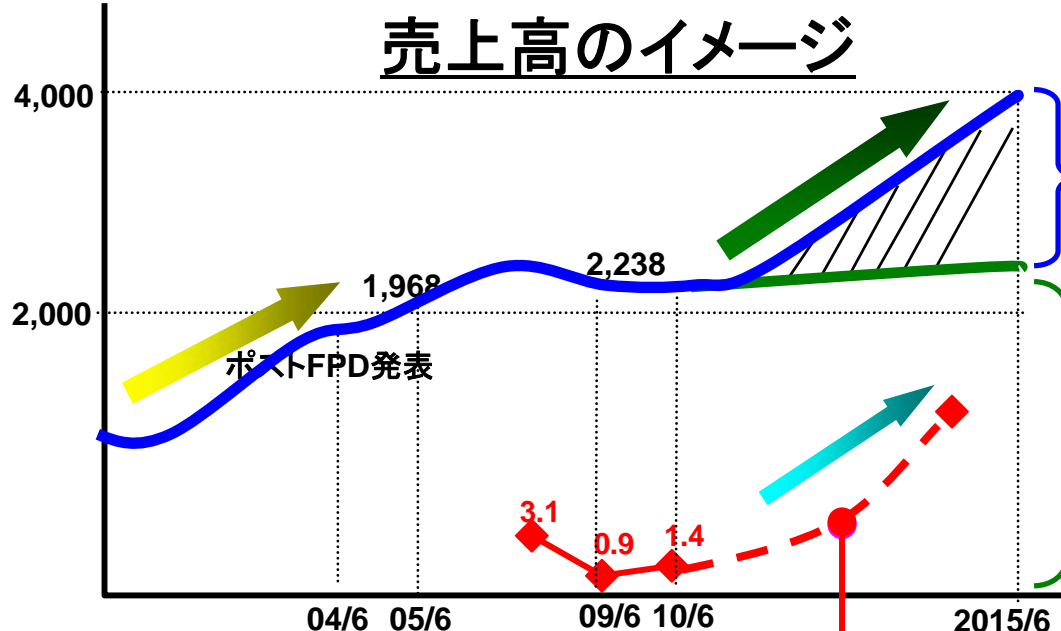
今後の成長戦略 ～ポストFPDから離陸～

ポストFPD戦略を
スタート(04年)



新商品の開発、新規事業の拡充
で中長期のさらなる成長をめざす

【単位:億円】



新商品の開発、新規事業の拡充

- ・イノベーションの促進
 - ・ターンキー商品の拡充
 - ・TV用大型有機EL製造装置
 - ・高効率太陽電池製造装置
 - ・LED製造装置(MOCVD)
 - ・各種樹脂コーティング(自動車用グレージング等)
- ・脱装置・脱真空ビジネスの拡充
 - ・再生可能エネルギー関連(太陽電池用コンデショナー、太陽光発電所建設、電気自動車用急速充電器)
 - ・マテリアルビジネス
 - ・委託加工
- ・M&A、資本参加、アライアンス

財務戦略

戦略的成長投資を実現するための
営業CFの獲得

- ・ROICの向上について取組を始める
- ・運転資金効率の改善(CCC短縮化)

真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック

ULVAC

本日は
ありがとうございました

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ (FPD)・半導体・電子部品業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品の市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆ 本資料における表示方法について

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入